



稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより No.2
令和6年 4月30日
文責 校長 遠藤 隆典

【学校の教育目標】
りこうで 稲穂小 WEB
たっしやで
ほがらかな
稲穂の子



「主体的に取り組む姿」があふれる学校に！

校長 遠藤 隆典

新年度の1ヵ月目が終わります。1年生も学校生活に慣れ、元気な声を響かせています。ひらがなや数字の勉強に真剣に取り組む姿、ほめられてピンと背筋を伸ばす姿がとても微笑ましいです。2年生以上はどの学級も集中し学習活動に向かっています。落ち着いて活動に真剣に取り組む雰囲気が学校全体に拡がり、子どもたちの頑張りが伝わってくる4月でした。

さて、ある日の職員室、ある学年の先生が、

「この自主学習のノートを見てください！自分で工夫して取り組んでいて、とても主体的な頑張りだなあって感動したんです！」

そう言って、子どものノートをみせてくれました。ノートには、漢字や計算の練習の他に、チャレンジ川柳(せんりゅう)を見据えた6句の川柳が書かれていました。川柳には素直な思いが伝わる上手な言葉が工夫され表現されていました。自分がやりたいと感じている学習に取り組んでいる頑強さが伝わってくるノートでした。

今年度、稲穂小は、子どもの主体性を伸ばし育てることを教育活動の重点にしています。与えられたことを真面目にこなすことも重要な力ですが、受け身ではなく、様々なことに自分ごととして考え取り組む主体的な力を育てたいと考えています。それが、将来、困難なことも乗り越えるたくましい力につながると信じています。この家庭学習のような、自分で工夫して頑張る主体的な姿を多く引き出し、見つけていける令和6年度にしたいと考えています。

授業においても、各学年で目指すべき「主体的に学ぶ姿」とはどんな姿なのか、教職員皆で話し合い検証し、主体的に学ぶ力を育てる授業に改善していこうと取り組んでいます。やるべき事を指示してしまいがちな場面で、課題に向き合い自分の力で活動できるよう活動場を工夫していき、子どもが自分で、そして仲間と力を合わせて課題に取り組んでいく経験を重ねさせていこうと考えています。

チーム稲穂小として、家庭でも主体性を育むことを意識していただき、子ども自らが考え取り組む場を大切にさせていただけたらと思います。よろしくお願いたします。

130周年へ 稲穂小7千歴史

★開校記念日 5月2日は開校記念日です。稲穂小学校は、明治28年2月16日に現在地で開校し、男子7名、女子1名でスタートしました。今年で129周年を迎えます。開校記念日は、平成28年4月に色内小学校と統合した際に5月2日へと変更になりました。

★校庭のエソヤマザクラ



校庭の土手の上の桜が咲きました。桜の下に看板があり、桜(エソヤマザクラ)の由来が書かれています。かつて、三角池(水流が止まりR5に埋土)のそばに桜があり、地域で一番早く咲くと言われていたそうです。それは、昭和の始めに海運業社長の藤山氏より環境整備のため寄贈された桜でした。現校舎への改築の擁壁工事でやむなく切り倒され、名残として土手の上にその桜の木で作られたベンチが置かれていました。ベンチは朽ちて撤去されましたが、新たに植えられた桜が、100周年以降の30年間見守ってくれています。

まず、話を集中して聞ける子に！そして、「聞く→行動」へとつなげる子に！

新年度スタートの4・5月は、各学年における大切な事を再確認し意識づけ習慣化していく重要な時期です。学校生活では、友達・先生とのかかわりながら多くの事を学び経験しながら成長していきます。その学びを充実させる土台として、稲穂小学校では、「話を最後まで集中してきく力を付ける」ことに全学年で力を入れています。

子どもたちには、様々な場面で伝えていますが、勉強もスポーツも、力を伸ばしていく人は「きく力」を身に付けている人です。現在、全校朝会のように学年を越えて集まる場面では、静かに話を聞く姿が全学年で当たり前身に付いていて、日々の学級・学年での先生方との頑張りによる意識の高まりと成長を感じています。

話をしっかり聞くことの目的は、聞いた後に自分がどうすべきか考え、やるべき取組へとつなげていくことです。「主体的に取り組む力」を重点としている今年度、話を聞いて、自ら進んで行動していく姿、工夫して行動していく姿が、増えていくことを期待し、全職員で意識付けしていきたいと思います。ご家庭でも、話を最後まで聞く姿、話の後に進んで取り組む姿を認めながら、その力を高めていってください。



「話を考えながら静かに聞く」場面

聞く
→ 行動へ

1年生も意識して頑張ります！



「話の後に自分で取り組む」場面

全力疾走、素晴らしい！ 何事にも「全力で取り組む」稲穂の子に！

グラウンドに残っていた雪山が用務員さんや教職員の雪割りにより一気に無くなり、さっそく、ラインが引かれ、運動会を見据えた50m走のタイム測定が始まりました。各学年の全力で走る子どもたちの姿を目にし、うれしく感じました。

「全力で取り組む」姿は、子どもが活動に対してめあてをもち、やる気を高めていなければ見られない姿です。

活動によっては、自分が得意じゃないことや苦手だと感じる事への頑張りや求められるのが学校生活での教育活動ですが、今までの自分を少しでも超えよう・成長しようという気持ちで「全力の取組」を重ねる事が、個々の力を伸ばし高めていくと信じています。

何事にも「全力で取り組む」、そんな稲穂の子であってほしいと願っています。



歩き方や自転車の乗り方を見直して、GW 後半も事故防止を！

GW から夏は、小樽の街には多くの観光客が訪れ、車の交通量も多くなります。道の歩き方、渡り方に、より一層気を付けてほしいと思います。信号を見ないで渡っている姿・自転車で道路に飛び出してきた姿を目にした地域の方々から、指導をしてほしい旨の情報が時々学校に入ります。大切な命を守るための安全指導は、様々な場面で行っていますが、家族の中でも、是非話題にして意識を高めて過ごすよう働きかけをお願い致します。



◀道路交通法の一部改正（R5）により、自転車利用者にヘルメット着用の努力義務が課されました。安全のために着用をしていきましょう！